

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690100231		
法人名	特定非営利活動法人 リアル・リンク京都		
事業所名	柏野の郷 グループホーム(もみじ)		
所在地	京都府京都市北区紫野中柏野町22番地		
自己評価作成日	令和5年4月15日	評価結果市町村受理日	令和5年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.keigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.keigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和5年5月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

各ご利用者が思い思いに生活して頂ける様、職員とご利用者、ご家族との垣根のない環境作りに努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2018年3月設立の当事業所は、古い町並みにモダンな建物が点在する、京都西陣の一角にあります。1階は小規模多機能住宅介護事業所で、2,3階がグループホームとなっています。新型コロナのクラスター感染を経験し、外出やボランティアとの交流などは制限されてきましたが、代わりにホーム内でのレクリエーションの活性化や、制作物の工夫、体操による筋力低下の防止などに取り組んでいます。また、時には外出し、高雄や嵐山へのドライブ、祇園祭の鉾見学を車中から楽しみました。そうした日々の様子は、毎月写真入りで家族に送り、他にも、複数の利用者の写真集を毎月作成し、個人情報に配慮しながら運営推進会議の委員や家族に送っています。紙面から、ホットケーキのトッピング風景や、ちらし寿司と豚汁で祝う誕生日、千本釈迦堂での花見など、楽しいイベントの数々を見てとることができます。また、一定の条件のもとで、法事のための外出や、自宅での宿泊をされる方もあり、利用者のしたい事を尊重してくれる事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修などで理念の最周知を行い、研修に参加していない職員へは回覧で周知・共有している。	法人理念として、「やってみよう ひととまちが動き出す」「つなげよう ひととまちを明るい未来へ」「たのしもう ひととまちにありがとう」が定められており、事業所内やパンフレットに掲載されている。ここに掲げられている地域との共存は、新型コロナの影響で現在は実現が難しいが、地元からの入所者も多い中で、常に理念を念頭に、今後の方向性を探っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であまり行えていない。事業所周りの清掃をご利用者も一緒に行って頂きご近所様との挨拶行っている。今後は以前のように町内会や地域の小学校と交流していく。	町内会に入り、回覧板を回している。近くの千本釈迦堂に外出レクリエーションで出かける以外は、コロナ禍のため近隣との日常的なつきあいはない。馴染みの店への買い物などは、本人の代行で職員が行っている。近隣の学校との交流や、ボランティアの方々の訪問も現在途絶えている。	新型コロナの5類感染症への移行に伴い、近隣との付き合いやボランティア受け入れなどについては、徐々に従前の関係を取り戻されるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で行えていないが、地域の人々との交流の機会を設けるよう計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席してくださった方々のご意見などは、真摯に受け止め、業務に取り入れサービスの向上を行っている。	運営推進会議は書面開催とし、紫野地域包括支援センターとリモートでおこなっている。事業所の運営状況や、事故の分析と対策、事業所内の衛生管理や面会方法などの具体的資料を提示し、意見をもらっている。地域の役員へは資料配布のみで、積極的な働きかけはおこなわず、意見交換はない。	徐々に対面での会議開催も考えておられますが、新型コロナで疎遠になった地域の役員との関係の再構築に期待します。また、報告書の中のヒヤリハットの件数が2か月で0~3件と少ないので、職員の気づきを増やすための取り組みにも期待します。さらに、議事録は家族にも送り、事業所の実情を知って頂くようお願いいたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の福祉介護課との連携を常に行っている。	地域包括ケア会議に管理者が参加して、各機関と連携を取っている。災害など、議題に応じて消防署や警察署からの参加もある。他にも、行政に事故報告に向いたり、運営推進会議議事録の持参など、顔の見える関係を築いている。新型コロナクラスター発生時にも市や保健所と連携して対処している。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例などで話し合いの場を設けている。また、法人内で研修を行い、職員の知識、ケアの向上に取り組んでいる。	身体拘束対応指針・虐待防止指針を備え、身体拘束防止・虐待防止委員会を3か月ごとにおこなっている。現在は拘束事例はなく、センサーマット使用の方はケアプランにあげて、家族の承認をもらっている。各階エレベーターには電子ロックが掛り、自由に出入りはできないが、出たがる方には階下の花壇に行くなどして気分転換を図っている。また、言葉で利用者の行動を制止するなど、不適切事例を見かけた場合は、主任や巡回した管理者がOJTとして指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修を行い、職員の知識の向上に取り組む、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例などで権利擁護について、話し合いの場を設け、職員間で知識、情報を共有する取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う場を必ず設け、内容について理解・納得されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置している目安箱や、サービス担当者会議でのご意見をサービス向上に繋げている。	日頃から好きな物やしたいことを本人から聞き取り、食事、おやつレクリエーションなどで実現している。入居以前から行きつけた地元の商店での買い物頼まれ、職員が買いに行くこともある。玄関の目安箱に意見は入っていない。家族からは面会時や電話で意向を聞き取っている。一時期多かった面会希望に対しては、地域交流スペースで実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や主任会議、面談など実施し職員の意見を聞く機会を設けて、意見を反映させている。	職員は普段から意見が言え、会議や個人面談でも思いを伝える機会がある。働きやすさにも配慮しており、人間関係も良いと職員から聞き取った。職員増員の要望が多く、コロナ禍で頓挫していた外国からの技能実習生の受け入れを秋に予定している。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に規定し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を設け、個々の知識、技術を向上させるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部から講師を招き研修を実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや生活歴からその方の”人となり”や生き方、生き様を考え、認知症等で現状何に不便を感じておられるか考え、面談でその方とお会いし、ニーズを考え見つけ出しサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にご本人との生活状況、関係性などをお聞きし、ご家族が何を希望され何を心配され何に不安を持たれているのか面談でご家族のニーズを考えサービス内容の提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15、16で得たご本人、ご家族のニーズから管理者と職員でご本人に何が必要かを検討し、必要な支援を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のご意向に沿う生活ができるように支援し、職員都合の支援や介助を行わないよう職員同士で話し合いかわり方を決定している。また、職員の思いを押し付けることがないよう配慮している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いを汲み取るよう努め、ご家族に代弁し、ご家族の立場や状況を考慮し、ご家族に安心して頂けるよう努め、ご本人とのかかわりを持って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、外出の機会が少なくまた面会が制限されご不便をおかけする状態が続いているが、今後も馴染みの店や場所へ出掛ける機会を作っていく。	毎月家族に手紙と写真で本人の様子を知らせ、面会も再開し、関係性を保てるよう支援している。馴染みの花屋の花を届け、利用者に喜ばれている。筋力維持のために意識して体操をしている。動画共有サービスを大型テレビに写し、歌を歌うなどして楽しんでいる。訪問理・美容でカットや髪を染め、好みの整容スタイルを継続している。抗原検査を条件に、法事のための外出や外泊をする方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症症状に配慮し、居場所を考慮した座席の提供を行っている。ご利用者同士が良好な関係性を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事などあらわれる場合は、時間を設け対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人のご意向を考慮した支援に努めている。常にご本人主体の援助を行っている。ユニット会議で職員間で情報の共有を行っている。	入居前の居宅介護支援事業所などからの情報や面談時の情報、普段の生活の中で本人や家族から聞き取った情報をもとに、入居当初、1か月、3か月、6か月の介護計画作成前にアセスメントをおこない、本人の意向を把握している。花の好きな方は職員の活けた花を楽しみ、繕い物の得意な方は繕い物をさされ、食事やおやつレクリエーションで好物を作ったり取り寄せるなどして、本人の意向を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カルテやケース記録、申し送りなどで、情報を共有している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回、ケアカンファレンスで、ご利用者の現状を話し合い、施設サービス計画書に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや個々の気付き、ご家族から頂いた情報や主治医の意見などケアカンファレンスで話し合い、課題の抽出や支援の行い方など決定し、施設サービス計画書に反映している。	施設サービス計画のモニタリングは担当職員が毎月おこない、それをもとにカンファレンスで職員間で話し合い、必要に応じて計画作成者が計画を見直している。安定期には最長1年で長期目標を設定して計画を更新している。退院時や、急な変化による区分変更のほか、サービス内容に特段の変更があれば、随時計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や気付き、支援、介助内容などケース記録に記入している。また、申し送りや管理日誌にも必要事項を記入し、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度に準じ、制度内で可能なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行えていないが、地域交流の場へ出かけたり、地域での取り組みに参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医をご本人とご家族に決めて頂いている。入居後は、2回/月、訪問診療を受けて頂き、主治医の意見や、ご本人の状態、処置内容など、ご家族様に報告している。	入居前からの主治医で、24時間体制で相談ができ、事業所への訪問診療が可能であれば、引き続き主治医を継続してもらい、それ以外の方は事業所の協力医療機関の訪問診療を受けている。他科受診には家族が付き添い、家族経由で医師との情報交換をしている。隔週で歯科医の訪問があり、希望される方は診察と口腔ケアの指導を受けている。必要に応じて訪問マッサージも受けられる。来月から事業所専属の看護師が週3~4日勤務する予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の居られる医療機関と24時間、電話対応可能な関係を築いており、何かあれば、医療機関からの指示を受け対応している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、既往歴や生活歴などの情報、介護サマリを提供している。また、入院先の担当者の方に都度、ご本人様の状態をお聞きしている。退院時は、現状の状態をお聞きし、看護サマリの提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話し合いの場を設け、当施設の方針を説明しご本人、ご家族から同意を得ている。	重度化や緊急時にどのような対応を望まれるかを、入居前に家族と話し、延命治療、心臓マッサージなどに関する事前意向確認書を交わしている。意向の確認は医療機関への情報提供であり、医療行為、救命行為を制限するものではないことも謳っている。看取りや看取り研修はおこなっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応手順書を作成周知し、回復体位の取り方など図解を用いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年、消防署協力の下、避難訓練を行い、不備がないよう、消防署から指導を受けている。	年2回の火災避難訓練は、以前は利用者と共にしていたが、令和4年度は昼間の想定で、消防署の指導を参考に、職員のみで消火器の位置や避難経路の確認をしている。被災時の職員の参集訓練や京都市のシェイクアウト訓練はおこなっていない。不審者対策として防犯カメラを設置している。備蓄はスポーツ飲料3日分や衛生用品などがあり、食品は賞味期限前に消費し、そのまま補充されていないものもあり、事業継続計画(BCP)の作成を契機に整備したいと考えている。	特に2階の利用者の平均介護度は3.4と、重度化されています。今後は消防署にも立ち会ってもらい、利用者を含めた、夜間想定での防火・防災・避難訓練の実施を期待します。また、備蓄の整備・補填にも早急に取り組まれるようお願いいたします。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中から、不適切と思われる言動やケアについては、ケアカンファレンスで、声の掛け方、ケアの見直しを行っている。また、研修に参加する機会を設け、個々の知識・技術の向上に取り組んでいる。	高齢者虐待防止や権利擁護の研修をおこない、職員は報告書を提出している。日頃から言葉遣いにも気を付け、慣れ合った言葉、赤ちゃん言葉などの使用を禁じ、不適切な場合は役職者がある場で注意をしたり、別の場で話すなどしている。フロアの机に個人情報が入った書類を放置しないよう話している。介護経験の浅い職員もあり、業務を通して気づきや学びの機会を持ってもらうよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を聞き出せるよう日々支援している。自己選択、自己決定して頂くよう、施設サービス計画書に項目を取り入れている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のご意向に沿う生活が出来るよう支援している。常にご本人様主体で支援するよう職員に指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/2か月、訪問理美容をお願いし、希望者にカラー、カット、パーマなど行う機会を設けている。更衣や整容など、ご自身で出来る事はご自身で行って頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けをご利用者と一緒に行っている。その方の好みの形状や、食器の配置で提供している。また、ご利用者様参加型の食事レクリエーションを1回/月以上行っている。	ご飯はこだわりの滋賀県産米を使い、フロアーで炊いている。昼・夕の汁物、副食類は配食弁当を外部委託し、仕切りのついた弁当箱で提供している。希望により朝はパン食の方もいる。毎月、誕生日や季節行事や食事レクリエーションとして、チラシ寿司やお好み焼き、たこ焼き、うどん、そうめん、鍋物などを楽しんでいる。ハンバーガーやポテトの宅配も好評である。家族から果物の差し入れなどもある。おやつ飲み物は数種類から選んでもらっている。できる方は洗い物や下膳などをされている。自前の茶碗やコップ、箸を使われる方もいる。	副食類は毎回同じ容器では利用者も飽きてきます。頻繁に利用者の満足度をはかり、行事食や食事レクリエーションの回数を増やすなどして変化を付け、食事をさらに楽しいものとされるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の少ない方は、主治医に相談し補食の提供を行っている。水分摂取は随時促し、1,500ml/日の摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日、口腔ケアを行って頂いている。出来ることはご自身で行って頂いている。2回/月、訪問歯科の機会を設け、希望者に受けて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を用い、ケアカンファレンスで排泄の失敗を減らせるよう検討し、検討した内容を実施し、毎月、見直しを行っている。	自立の方が2名おられるが、他の方は紙パンツやパットを使用し、何らかの介助を要する。不快な状態が持続しないように、夜間も定期的にトイレ誘導やパット交換をして保清に気を付けている。自ら尿意・便意を感じて起きて来られる方もある。歩行不安定により、ポータブルトイレ使用の方もおられる。運動や手伝いで体を動かすことで排便を促したり、家族の意向で牛乳やヨーグルトで便通の促進を図っている方もある。	



京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時は、リラックスして浴槽に浸かって頂き腸の動きを促進している。なかなか排便出来ないご様子の時は、トイレにてお腹を「の」の字にさすらせて頂き排便を促している。主治医指示の下、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂く為、声掛けの工夫を行っている。時間に関しては、ご本人様のご希望に沿うよう可能な限り対応している。	週2回、午前午後の決まりは設けず、入浴を実施している。1人ずつ湯を入れ替え、湯温や湯量は本人の好みに合わせている。浴槽内では歌を歌ったり、話をするなどしているが、早めにあがる方が多い。拒否の方には、時間を空けたり、機嫌を見て頻回に声をかけるなどしている。好みのシャンプーや洗顔剤を使われる方もいる。足ふきマットは1人ずつ交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度、照明を調節し良眠出来るよう配慮している。眠たいご様子が見られる時は、ベッド臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表から薬の効能を理解するよう努め、職員間で情報を共有している。ご利用者様の状態を主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の状態に合わせて、家事作業を手伝って頂いている。また、お好みの番組が放送される場合は、事前にお伝えご希望に沿うよう視聴して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出の機会が少ないが、以前のように外出の機会を設けていく。	普段はあまり出かける機会はないが、時に1階の花壇で外気浴をしたり、千本釈迦堂まで散歩したり、高雄、嵐山へのドライブ、祇園祭りの鉦を車中から眺めるなどしている。抗原検査を条件に、法事への参加、外泊などをされる方もいる。新型コロナの5類への移行に伴い今後は外出を増やす予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてお金はお預かりしている。現在、もみじ(2階)にお金を所持されているご利用者は居られないが、買い物などご自身で支払われる場合は支援していく。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙をご希望されたら、ご希望に沿うよう支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、整理整頓、清掃消毒は行っている。ご利用者が不快、混乱されるような物は置いていない。	リビング内には大きな窓があり明るく、対面キッチンと3卓のテーブル、ソファが配置されている。足置きやクッションで椅子の座面の高さを調節している。壁には4月と5月の行事写真や、大きなカレンダー、皆で作成した鯉のぼりの折り紙作品が貼られ、季節を告げている。席順は特に定めていないが、自然に居場所が決まり、殆どの利用者はリビングで1日の大半を過ごされる。中央の大画面のテレビは、日中間は殆どつけている。テレビに連動させた動画配信(Youtube)で、歌番組などを見て一緒に歌うなどしている。ここでは、食事の他、作品制作、レクリエーション、体操、誕生会、洗濯物置みなど様々な活動がおこなわれている。加湿器と空気清浄機を設置し、換気や消毒にも気を付けている。掃除は主に夜勤者がおこなうが、汚れれば適宜おこない、清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症症状に配慮し、居場所を考慮した座席の提供を行っている。ご利用者様同士が良好な関係性を築けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されている物などをご家族が持ち込まれている。	居室入り口には何丁目何番地と書いた手作りの札がかかり、階により、その下に個人名を入れている。居室の向きは東、西、南いろいろであるが、予めエアコン、電動ベッド、小チェスト、防炎カーテン、照明などが備わり、布団や好みの家具類は自由に持ち込める。筆筒、衣装ケース、仏壇などを持ち込み、母の日のカーネーションのフラワーアレンジメント、写真などを飾っている方もいる。事業所は市街地に位置するが、周囲の建物は低層で、近隣とは一定の距離が保たれており、居室は明るい。できる方は職員と一緒に掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室、リビング、キッチン、トイレ、脱衣室など、使用中でない場合は、好きなように歩いて頂けるよう、動線には、物を置かないなど安全に配慮している。		